

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙「みらい」
NO. 4365
23年7月14日(金)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

郵政ユニオン 第12回 定期全国大会開催される

おはようございます。
7月7日(金)～8日(土)の2日間、東京労働会館ラパスホールにて郵政ユニオン第12回定期全国大会が開催されました。

長崎中央局支部から九州地本代議員として向井書記長と黒田執行委員が出席。またオプザーバーとして佐田執行委員が参加しました。全国大会を報告します。

大会には全労協、全労連のほか日本共産党から宮本議員が来賓として見えられ、暖かくそして力強い激励を述べられました。

開会にあたり日巻中央執行委員長は挨拶で政治情勢について、岸田自公政権は数の力を背景に、軍拡財源法、軍需産業支援法など

様々な悪法が次々と強行採決された。こうした4党による国会運営は改憲への動きを活発化させ、「戦争する国」へ突き進もうとしており、自公政権及び改憲勢力からの転換を実現することが重要。

また日本郵政グループ各社では、23春闘で「夏期・冬期休暇削減に併せて賃金改定を行う」として、正社員に付与されている夏期・冬期休暇計6日間を4日削減し賃金改善にあてる旨の回答をした。夏期冬期休暇の削減に伴う財源によって生み出した「3200円」分が「賃金改善」と言えるのか。



日本郵政はこの間、「事業を取りまく環境が厳しい」との理由で7年連続ベアゼロを繰り返しながら、正社員の処遇を引き下げて、低い処遇に置か

れている非正規社員と合わせる事があたかも、「不合理な格差是正」であるかのような提案をおこなってきた。正社員の処遇を引き下げて不合理な格差の解消を図ることは到底、認めることはできない。

郵政ユニオンは、労働契約法20条最高裁勝利判決を勝ち取った労働組合として、切り開いてきた格差是正に向けた大きな流れを止めるような「労働条件見直し提案」に真つ向から反対し、真の格差是正、均等待遇を実現するためのたかい抜く、と決意を述べました。

本部からの報告の後で行われた討論では各地から延べ50名が発言を行い、大会議案への補強を含め諸課題への対応を皆で考えました。



九州地本からは、一般職の処遇改善や「職場のロリエ」導入への取り組み要請、非正規社員の作業能率測定の改善などの意見を出しました。このうち「職場のロリエ」導入については、化粧品や生活用品大手の「花王」が進める「トイレットペーパー」と同じように生理用品を常備する取り組み」に日本郵政グループも参加するよう要請してほしいというものです。

約15万人の女性社員が働きやすい職場をつくる一環として、進めれば日本郵政グループのイメージアップにもつながるとして強く求めました。

昨年までコロナ禍でリモート併用での開催でしたが、今年は従来通り全代議員が会場に集合しての開催となりました。

私は今回、初めて全国大会に参加しました。地本代表報告の中で、23春闘ストライキや他局への宣伝ビラ配布活動を通して組織の結束、団結力が更に高まった。「郵政ユニオン」の無い職場では「ワハラ」が今も横行している」との意見を聞き、私もこの長中局から組織を無くしてはいけないと思いい、郵政ユニオンの存在意義を改めて実感しました。

討論でも出された要員不足、賃金格差、夏期冬期削減など私たちを取り巻く様々な職場環境が良いい方向に改善されなければ近い将来、郵政の職場で働く人がいなくなると思います。会社は利益ファーストではなく、全国で懸命に働く社員を一番に考えて欲しいと思いました。



期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。
1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

郵政ユニオン長崎の
ホームページはこちら



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員が正社員化を。

ゆめが、均等待遇。

なごころ差別ー

ユニオンは労基法裁判に勝利するぞー！